



Good News for Japan **とぎのこえ**

平成二十六年五月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

失敗を恐れなくて

石川節子



まう。それに気づけばまだいいほうで、自分の状況を認められずに、もがき続け、徹底的に自分を偽り、傷つけ、立ち直れないほどになつてしまつて……。――

神様の独り子キリスト・イエスの愛弟子ペトロは、「あなたと一緒に死んでもかまいません!」

と言つてほどなく、イエス様を裏切つてしまいました。十字架にかけられるため捕らえられたイエス様の様子をひそかに見ていた時に、「あなたもイエスの仲間だ」と指摘され、

「そんな人は知らない」と言つてしまつたのです。それは、ペトロにとつて人生最大の失敗でした。

その後、イエス様を裏切つたペトロは破門されたのでしょうか? いえいえ、そんなペトロのためイエス様は、

「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈つた。だから、あなたは立ち直つたら、兄弟たちを力つけてやりなさい」(ルカによる福音書

22章32節)

と前もつて言われていたのです。また、ペトロが立ち直るために、裏切つた彼に注が

れるイエス様の温かいまなざしがありました。聖書に、「主は振り向いてペトロを見つめられた」(ルカによる福音書22章61節)

とあります。失敗を責めることなく、寛容に包み込むイエス様の愛のまなざしと祈りが、ペトロを立ち直らせた。

「立ち直る」とは、立ち返る、もとに戻る、失われた自分をもう一度取り戻すことです。ペトロは失敗を通して、心からイエス様を愛する自分を取り戻すことができました。そして他者の痛みに寄り添うことのできる真のリーダーとなり、現代のキリスト教会が存在する土台となつたのです。

ペトロにとつて裏切りという失敗は、「兄弟を力づける」という、イエス様によつて与えられた使命・ミッションへと変えられました。「自分のいる場所を超える」決断をしてそれまでの場所から出なければ見えないものがあり、立ち位置を変えることで見えてくるものがあります。ペトロは、この失敗を経験したからこそ、

「自分のいる場所を超える」決断をしてそれまでの場所から出なければ見えないものがあり、立ち位置を変えることで見えてくるものがあります。ペトロは、この失敗を経験したからこそ、

立ち位置を変え、他者の痛み、苦しみに共感できる人へと変えられた、と言つてもいいでしょう。

人は、人生の目的―自分は何のために生まれてきたのか―を知る時に、生きる力を得られます。神様から与えられる使命・ミッションの中には、失敗を通して得ることのできるものもあるのではないのでしょうか。私たちの失敗にも、立ち位置を変えるきっかけとなるものがきつとあるでしょう。神様を信じて生きるということは、失敗をせず、試練に遭わないように守られて生活できることではありません。神様が、それらを通して立ち直らせ、新たに歩み出す力を与えてくださる日々の積み重ねなのです。

あなたも神様を信じ、失敗を恐れなくて、あなたの使命・ミッションに向かっていきましょう。イエス様の愛のまなざしと祈りは、今、あなたにも向けられているのですから。(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

春は出会いの季節です。進級、進学、就職、転居……。新しい環境に期待を抱きながら、新たな人間関係を築いていくのに不安を感じることは誰しもあるでしょう。

入つてみるとイメージしていたものとは違つていたという人も……。思うように自分が出せず、気づいてみると孤立している自分、周囲に適応できていない自分がいて、「こんなはずじゃなかった!!」と、理想と現実のギャップに愕然としてし

自分で希望して手に入れた環境であつても、実際に

〈信仰の体験談〉

行動の原点は聖書の言葉!



特定非営利活動法人チャレンジャー支援機構
パン工房「ノアノア」副理事長
榎本恵子

今年、パン工房「ノアノア」を立ち上げて十四年目になります。「ノアノア」は障がい者の就労の場を少しでも広げたい、という願いから生まれました。「ノアノア」とは、タヒチの言葉で、「かくわしい香り」という意味です。聖書に出てくる「ノアの方舟」にも意味をからませています。

福音喫茶をやりたい

もともとは、「福音喫茶」をやりたいと思っていました。それは、障がいをもった長男の就労の場を考える中、人懐こい彼の個性を生かしたふれあいの場を、と、たどり着いたのが喫茶店だったからです。クリスチャンの私は、喫茶店での働きを通して、神様に支えられて生きることができると強さ、楽しさ、喜び、幸いを伝えたい、また、「一人ひとり」は神様によって必要とされ生かされている。それぞれ価値ある存在である」ということを伝えたい、と強く思っていました。

縁のない生活をしていましたので、今考えると、とても無謀な計画でした。しかし、聖書の言葉に「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです」(ペリピン人への手紙2章13節 新改訳聖書) というものがあるのですが、今の自分の抱えている思い、夢は、ひよつとすると神様が与えてくださったものかな?と思うと勇気が湧いてきました。そして、

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます」(マタイの福音書7章7節 新改訳聖書)

という聖書の教えを堅く信じて、私の一歩が始まりました。この様子を一番恐れ、案じたのは夫だったと思いますが、常に行動しながら考える性分の私を心得てか、黙って見守ってくれたことに感謝しています。

クリスチャンになったわけ

息子は、三歳になった春から、医者勧めもあって、YWCAで、当時統合保育をおこなっていた幼児グループに通うようになりました。ここで、彼は神様の愛を小さな身

体いっぱいを受けて育ちました。

私自身もまた祖母や叔母がクリスチャンだったこともあり、幼い頃から教会生活には縁がありました。またミッシオン系の大学で学生時代を過ごしたこともあり、息子たちの就園中に時々開かれる聖書の学び会にも加わるようになりました。尊敬する園長先生の「神様につながっていたら間違いない」と確信をもって話される姿勢に魅せられ、クリスチャンの親仲間も増え、我が身の周りには徐々にキリスト(菌?)がはびこっていったのです。

当時、マイカー通園の行き帰り、日々教わる幼児賛美歌を、親子でエンドレスで歌い、子どもが眠った後もトーンを落として口ずさむ毎日でした。そのうち、賛美歌の奥深さに魅せられ、より一層、聖書に親しむようになりました。息子の将来を思い、不安を覚えることの多い日々、賛美歌によってどれほど心が癒され、慰められ、励まされたことか。

息子がここで身につけた生活習慣は、何事にも感謝すること、周りの人のために祈ること、です。この二つは三十六歳になった現在も彼の生活そのもので、「神様、大好き!」が口癖です。

このような経緯があり、私は夫の転勤に伴い移り住んだ柏市の教会で、受洗の恵みにあずかりました。

喫茶店ではなくパン屋に

さて、福音喫茶の思いから具体的な計画に入る過程で、共に仕事をする障がい者が取り組める仕事の広がり考えた時、喫茶店ではなく、パン屋だなぁと思うに至りました。パン作りのほうが、毎日の仕事につながれること、製造から販売までが一日の流れに収まり、障がい者にとって生産活動と経済感覚を体験学習しやすいこと、そして何より、私自身が介入できる興味と体力の範囲であること、が大きな理由でした。

「ノアノア」の歩み

二〇〇〇年十一月、小金井駅南口から歩いて四分のところに開いた「ノアノア」ですが、店舗の物件探しから始まり、開店準備、ガラッと変わった家庭生活、人件費や諸経費と売上のバランスなど、その折々の苦労は想像以上のものでした。早朝から午後七時の閉店まで、わが身であってわが身でないような、心身共にしんどい日々が続きました。でも、そのような中で、徐々に地域社会に存在感を与えられるようになり、障がい者の就労の相談もポツポツ受けるようになってきました。これは前進の大きな励みになりました。

目標が具体化してきて、パン作りの学びをあちこち掛け持ちで始めて三年目に、現在の法人理事長高島法子さんと出会いました。年齢も近く、共々有価な価値観と食べ物への嗜好をもち、裏表のない快活な言動と包容力、そして、すばらしい経営的手腕の持ち主です。それまで一人で進めてきた夢を、二人で共有できるようにになった喜びと心強さは、神様の大きな恵みとしか言いようがありません。彼女との

でも、経済的にはとても大変で、個人経営には限界があ



高島さん(左)と法人格を取得した10年前



パン工房「ノアノア」南口店



「ノアノア」北口店

ることを痛感し、共に労する仲間が倒れることなく、先を見据えられるようにと、四年目を迎えた時、NPO 法人格を取得しました。これによって単発的な経済的支援を受けるチャンスが与えられるようになり、営業活動も少しずつ実績を積み上げ、販売先も徐々に広がっていきました。さらに、四年後の二〇〇八年四月、障害者自立支援法に基づき、東京都の認可を受けて北口店も開所し、「多機能型」(就労移行支援と就労継続支援)事業所を設立し、新たに福祉事業所として歩み始めました。こうすることで、スタッフの人員費は公からおりるようになり、経済的な心配は少し軽くなりました。最初から苦労を共にしてきた法子さんには理事長の重責を担っていただいています。

グループホームをつくる
仕事も利用者さんの輪も広がってきたところで、次の新たなビジョンとしてこの子たちの親亡き後の生活のため、自立訓練の場の必要を覚えるようになりました。地域社会の中で、周りの人々と自然体の交わりができるホームを造りたい！そして、土地探し、資金計画、あれこれ思いを巡らせる日々が続きました。定年を迎えた夫を説き伏せ、ようやくローンの返済を終えた我が家を担保に、土地の購入、建築計画等々携えて、銀行融資の相談に行きました。同行してくださった友人の提言により、家を手離さずに済む手立てを探り、融資の最終決定審査会にかけていただくことになりました。一カ月後、融資可能の返事をいただいた時は本当にうれしかったです。現在、息子を含む五人の利

用者が、週日「ノアノア」での仕事を終えると、「みぎわ」と名づけたグループホームに帰り、週末には親元に帰るとい生活をしていきます。夫の死
これまでの歩みを振り返ると、私は常に、「神が良しとされたら前進できる！必要なものは与えられる！」と意外に軽く動き出し、夫は常に一事一、大きな賭けに出るようなしんどい気分と共に歩んでくれたように思います。息子の誕生から今日まで、私の夢のような思いと行動力に振り回されてきた夫の生涯。折々に、(僕の人生、……もつと平安な生活があったはず)と彼のぼやきが聞こえそうなお気がしつつ、照れくさくて労働することもできない私でした。その夫が、昨年の八月、好きな週末の山歩き先で、心筋梗塞のために急逝したのです。「ノアノア」の働きに加わって、十年目のことでした。夫の休み明けの仕事がそのまま残されているような状況下で、悲しみも寂しさも思う間もなく、仕事に追われる日々が続きました。



夫・年に1度開かれる感謝の集いの時に(2010年)

昨年、クリスマス前のイブ礼拝は、(ちょうど四カ月前のきょう、山で倒れた夫が死亡宣告を受けて、搬送先の病院から自宅に

帰る道中だったな)と、無性に切ない思いで過ぎました。今は、聖書の中の「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある」(伝道者の書3章1節 新改訳聖書)という教訓に導かれ、励まされ慰められています。この先は、夫がいろいろな形で遺してくれていったものを、豊かな実りのある種として育みながら、夫への感謝の気持ちを忘れずに、今をより良く生きられる努力をしていくつもりです。

これまでの歩みを顧みて
私のこれまでの行動の原点は、いつも聖書の中の言葉にあったと思います。一週間の仕事を終え、日曜日は教会に出かけて、聖書の御言葉にふれ、折々に話題豊かな牧師のメッセージを楽しみ、いろいろな兄弟姉妹と顔を合わせる——教会で心身のリフレッシュができる恵みはとて大きく、帰宅の足も軽くなります。そして、仕事生活で抱える問題も、礼拝

「あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります」(マタイの福音書6章34節 新改訳聖書)
最後に、パン屋の私から伝えたい聖書の一節があります。「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による。」(マタイの福音書4章4節 新改訳聖書)



「ノアノア」のスタッフと

グループホーム玄関前の表札→



グループホーム内部個室

クリトリ
ご住所
ご氏名
□私の近くの救世軍を紹介してください。
□キリスト教についてもっと知りたいです。
□「ときのかえ」の購読を申し込みます。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp> E-mail: webmaster@salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈アメリカ〉大規模地すべり被災者支援活動

3月22日、ワシントン州シアトルの北約90キロのところにある山間の町オソで、大規模な地すべりが起こりました。被害は約2.6平方キロにわたっており、多くの家屋が損壊し、道路や河川が寸断されました。懸命な救援活動がおこなわれていますが、3月29日現在、死者は30人、行方不明者は95人に上っています。

ワシントン州にある救世軍は、地すべり発生直後からキャンティーンカーを出動し、救援活動に従事する人々に食事を提供しています。また地元の救世軍は、被害を受けた人々への支援活動を開始しました。家や持ち物すべてを失った人々には、仮設住宅建設を含む生活再建のための経済的支援や、食料、衣服、医薬品の提供を、また他の地域に移動する人のために燃料補給



アメリカの救世軍のキャンティーンカー

引換券を、しばらく仕事につけない人々には食料や日用品の引換券と家賃や公共料金の補助などをおこなっています。

〈チリ〉巨大地震被災者支援活動

4月1日、チリの沖合いを震源とするマグニチュード8.1の巨大地震が発生し、4月4日現在、6人の死亡、何千棟もの家屋の損壊が伝えられています。また、船を失った漁業関係者も多く、そ

の足跡を残しました。現在、四十五の小隊(教会にあたる)と十二の分隊(伝道所にあたる)、二十の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者支援など様々な社会奉仕活動をおこなっています。

母の日は、アメリカのウエストバースニア州に住むアンナ・シャープという人が、日曜学校の教師だったお母さんの記念会をおこなったことがきっかけで、始まりました。生前、アンナのお母さんは、聖書の「あなたの父母を敬え」(出エジプト記20章12節)ということを子どもたちに教え、お母さんに感謝の気持ちを表すことの大切さを語っていました。このことを心にとめていたアンナは、「母の日」をつくらせて、感謝の気持ちを表しましよつ」と言っており、お母さんの好きだったカーネーションを集めた人々に配りました。この考えに賛同した人々が集まり、次の年、教会で第一回目の「母の日」礼拝をおこないました。これが国中に広まり、一九一四年、アメリカの議会で五月の第二日曜を「母の日」にすることが決まりました。日本で一般に祝われるようになったのは、一九五〇年頃からと言われています。

発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部五〇円(平六〇円) 十五日号一部六〇円(平六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(平七〇円) 一年分(二七〇円)送料七五〇円 振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

の人々の生活再建への支援も急を要されています。被害が大きかったチリ北部のイキケへの主要道路は、地すべりや陥没などで寸断され、救援活動に支障をきたしており、救世軍は、地元の公的機関と協同で、迅速な支援活動を進める道を探りつつ働きを進めています。被災地近くの救世軍は3つのチームに分かれて、水やミルク、食糧の配布をおこなうとともに、心のケアにも心を配っています。

〈日本〉東日本大震災支援活動—継続

2011年3月11日の大震災発生から3年が経過しました。この間、救世軍は国内外から寄せられた寄付金を用いて、主に宮城、岩手、福島



昨年11月、宮城県女川町出島の漁協へウインチを提供

被災地で様々な支援活動をおこなってきました。震災発生後、東京にある救世軍本部に「震災被災地支援事務局」を立ち上げ、被災地の状況の調査、地元行政関係の方々との話し合いを重ね、地域のニーズに応える復興支援を進めてきました。

時間の経過とともに被災地のニーズも変化してきたのを機に、昨年11月、「震災被災地支援事務局」の名称を「災害対策室」と改め、これまでの復興支援を継続しつつ、より精神的・霊的ニーズに応えられるよう、働きを進めていくことになりました。また、今年度に入り、被災地の仙台にある救世軍仙台小隊(教会にあたる)を支援活動の拠点として担当者を配置し、より一層きめの細かい支援活動をおこなっていくことを目指しています。

救世軍とは

The Salvation Army プロテスタントのキリスト教会で、世界百二十六の国と地域で働きを進めています。

創立者はイギリスのメソジスト教会牧師だったウィリアム・ブース。一八六五年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いを目指して、この働きを始めました。百四十九年経った今もその精神は変わらず、助けを必要としている人々のニーズに応えながら、神様の愛を伝えていきます。

社会鍋募金へのご協力を感謝いたします!

昨年12月も、社会鍋募金にたくさんの方々からご協力をいただきました。心からの感謝とともに、結果をご報告いたします。



北海道地区	1,092,361
関東東北地区	898,354
東京・神奈川地区	13,740,499
東海地区	618,832
関西四国地区	1,828,596
中国九州地区	1,210,260
合計	19,388,902

(2014年3月31日現在)

集められました寄付金は、救世軍がおこなう様々な支援活動に用いさせていただきます。

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)